BOOK REVIEW 書評

日本史上最高の英雄（ヒーロー） 大久保利通

維新の理想を実現したリアリスト

倉山満著

大久保利通が明治新政府の大蔵卿になり、次いで新設した内務卿を務めたのは、そこに統治の核心があったからである。薩摩藩の下級武士の家に生まれ、お由良騒動に巻き込まれて父が島流しになり、悲惨な暮らしを強いられた大久保は、島津斉彬（なりあきら）によって見いだされ、次いで久光に趣味の碁を習ってまで接近し、側近に取り立てられて以来、内務卿として暗殺されるまで、権力の座に居続けた。いくら理想を語っても、現実の政治権力を手にしない限り、それは空想にすぎないからである。著者は、幕末・維新を語りながら、今の日本に警告を発している。

薩摩・長州軍と幕府軍が戦った戊辰（ぼしん）戦争は、世界的にはイギリスとフランスの代理戦争だった。両軍とも新式の武器を両国から提供されていたからである。そうやって内戦で疲弊した途上国を植民地化するのが、当時の列強のやり方だった。文明の先進国と思っていた清国が、アヘン戦争以来、列強に侵食される惨状を他山の石としたのは、幕府も薩長も同じだった。

世界を知っていたのは、通商関係のあるオランダから情報がもたらされる幕府で、鎖国を祖法としながら、開国はやむなしと考えていた。それに対して薩長が尊王攘夷を唱えたのは、討幕の大義名分を得るためである。薩摩は当初、幕政改革を目指していたが、やがて倒幕しか道はないことを悟り、長州と組んで最後の将軍・徳川慶喜を追討する。

西郷が軍事を担当したのに対して、大久保は京都で政務に当たり、新政府の骨格を作った。大久保が大坂奠都（てんと）を唱えたのは、京都の公家から政治を奪取するためで、やがて東京に奠都してそれを実現させる。

そんな大久保の最後の障害となったのが、無二の親友・西郷隆盛だった。まさか鹿児島で西郷が立つとは思わなかったのに、不平士族のみこしに乗ってしまう。その西南戦争に勝つことで日本は古い時代に訣別することができたのだが、大久保にとっては血涙を流す戦いとなった。（徳間書店、1250円＋税）

藤田嗣治（フジタ）がわかれば絵画がわかる

近代日本最大の画家の実像

布施英利著

東京都美術館の「没後50年 藤田嗣治展」で83年に及ぶ藤田の代表作を見た。東京美術学校時代に、黒田清輝に禁じられた黒を多用したことから、悪い絵の見本とされた「自画像」から、パリでピカソの影響を受けたキュビズムの静物画、美しい乳白色の肌で一世を風靡した裸婦画、たくましい南米の女たちの絵、茶色い色調の「アッツ島玉砕」、戦争協力を批判された日本を離れ、ニューヨークで描いた白い肌の女性の「カフェ」、そしてフランスに戻り、カトリックに改宗しての宗教画まで、その振幅の大きさに驚かされた。

表面をなぞると時代に翻弄されたようだが、著者はどれも藤田自身だという。戦争画にしても、当局に依頼されたのは確かだが、父が軍医だったことから、戦争を嫌悪する考えはなく、むしろ進んで戦争を描いた。それは絵画の持つ時代表現の側面である。

乳白色の肌は、浮世絵の手法から、白い絵の具を塗ったキャンバスに毛筆で線を描き、黒色には墨を使った。ジャポニスムの再来で、その独創性が評価された。独創的だから普遍性を獲得したのである。最後に夫婦でカトリック教徒になったのも普遍的な信仰ゆえか。

興味深いのは、フランスにある先史時代の洞窟の線刻画に、大きな影響を受けていること。終の棲家も、そんな洞窟のある村に構えた。つまり、人類史的な普遍性を求めた結果が、藤田の独特な線だったのである。そんな藤田を、宣伝屋だとか軍にすり寄っているだとか、日本の画壇は批判した。藤田自身は酒は飲めず、派手に遊んだ夜も家に帰り、朝まで絵筆を握っていた。世間にではなく、自分に真摯に生きたのである。

著者は藤田の代表作は、どれか一点ではなく、その「変遷」にあるという。「フジタさん、あなたは最後まで偽物だった。そしてだからこそ本物の芸術家だった」と。人生とはそんなものかもしれない。どこに本当の自分がいるのか分からないのだから、変化を恐れてはならない。（NHK出版新書、1000円＋税）

訳注 秘蔵宝鑰

万民を救う空海の熱意

松長有慶著

淳和天皇の勅命を受け天長7年（830）に各宗が教義書を献上したとき、晩年の空海は『秘密曼荼羅十住心論』十巻と『秘蔵宝鑰（ほうやく）』三巻を出した。いずれも、人間の心を住心（じゅうしん）と名づけ、十段階で説いたもの。前者は広本、後者はそれを簡略化した略本と呼ばれる。

十住心とは、欲望のままに生きる第一住心から、道徳心が兆す第二住心（儒教）、さらに宗教心に目覚める第三住心（インド哲学、老荘思想）、仏教に入って小乗仏教（上座仏教）のうち声聞（しょうもん、仏弟子）の境地の第四住心、縁覚（えんがく、修行者）の境地の第五住心、大乗仏教の唯識・法相宗の境地の第六住心、中観・三論宗の境地の第七住心、天台宗の境地の第八住心、華厳宗の境地の第九住心と深まり、最終の第十住心が真言密教だとしている。

人間の心を十段階に分けるのは、12世紀終わりの中国で流行した「十牛図」と似ている。空海の特徴は、それに比較宗教・仏教論を重ねたことで、真言密教が仏教の集大成との自覚ゆえであろう。唯識から華厳までは奈良仏教のいわゆる南都六宗である。

釈迦仏教（上座仏教）は自我や欲望を否定し悟りを求めるのが特徴だが、それから約五百年後に現れた大乗仏教は人々の救済を優先する教えで、中でも密教はインド土着のヒンズー教の神々も取り入れ、人間の生、欲望を積極的に認める傾向がある。基本の経典が大日経で、宇宙の中心・根源に大日如来が存在するとし、釈迦はその現れとするのは、キリスト教の神とイエスの関係に相似する。

その後、密教はインド、中国、朝鮮では滅び、日本にだけ天皇の庇護を受け生き残った。本書は、高野山大学での3年間の共同研究の成果を著者がまとめたもので、深遠な教えを現代文で読めるのがありがたい。

第一住心も仏性の現れというのが空海の思想で、そこには万民を救おうとした熱意が感じられる。十住心に照らして自分の心を見ると、いずれもがあることに気づかされる。（春秋社、3500円＋税）

仕事にしばられない生き方

自分らしく、しなやかに

ヤマザキマリ著

著者は、古代ローマ時代の浴場と現代日本の風呂がテーマの漫画『テルマエ・ロマエ』が大ヒットした漫画家。ビオラ奏者のシングルマザーに育てられ、17歳でイタリアに油絵留学しながら、極貧から抜け出すために漫画を描くようになった著者の半生記で、人生はお金だけじゃない、好きを極めろ、と読者を励ます。

お嬢様学校に通いながら貧しかった著者が初めて体験した仕事はチリ紙交換。しんどいのに日に五百円しか稼げなかったが、いざとなれば何でもやれるという自信になる。自立志向の母により14歳でヨーロッパ独り旅行。オーバーブッキングで宿を追い出され、野宿しそうになった時、「頼むよ、自分」という「もうひとりの自分」を発見。やがて自分を俯瞰するのが習慣になる。

フィレンツェで美術学校に入ったが、仕送りは家賃ほどでアルバイトに明け暮れ。4歳年上の詩人のイタリア人が好きになり同棲するも、稼がない彼のためますます生活苦に。何度もアパートを追い出されたが、ホームレスの女王に出会い、お金にしばられないローマ人の誇りを知る。彼が多額の借金をしても別れられなかったが、子供ができて「自我がつるりとむけ」、著者もシングルマザーに。

自立のため漫画家になったのは29歳の時。母のいる札幌に帰り、日伊協会の職員をはじめイタリア語教師、テレビのリポーターに料理の先生など「10足のわらじ」を履き、仕事をし過ぎて上司から「私が無能に見える」と叱られたり。

その後、12歳年下の研究者のイタリア人と再婚、シカゴ大学に職を得た彼とシカゴに移住、息子はその後、ハワイ大学へ。前著『国境のない生き方』のようにポルトガル、シリアなどで暮らす。働き過ぎないためマネージャーを雇う。

近作の『プリニウス』は『博物誌』を書いた古代ローマの学者で官僚、軍人。ネロの側近だが、巻き込まれることなく、しなやかに自分らしく生きた。著者の理想だという。（小学館新書、880円＋税）

幸福とは何か

ソクラテスからアランまで

長谷川宏著

幸福論は年齢や環境によってかなり異なる。高齢期の評者は、「自分の作り出した幸福はだましたりしない。それは学ぶことであり、人はいつでも学んでいるのだから」というアランの幸福論に共感する。

20年前から田舎暮らしをしているので、「どう考えようと、わたしたちは大地の子である。わたしたちの生命は大地の生命の一部であり、わたしたちは植物や動物と同じく大地から生ける糧を得ている」というラッセルの言葉にもそうなのは、自分の境遇を幸せだと感じるように努めてきたからでもある。ちなみに上記2人とヒルティの幸福論が現代の「三大幸福論」。

個人的過ぎて哲学の対象になりにくい「幸福」を、哲学者はどう扱ってきたのか、著者は都市共同体が生まれた古代ギリシャ・ローマ時代から、個人主義に価値が置かれるようになった18世紀、そして世界大戦の20世紀の三つの時期に分けて取り上げている。中世は神の支配が強すぎて、論じるほどの幸福論はないという。

ソクラテスやアリストテレスの時代、「人間は都市国家的動物である」というのが根本的な命題であった。ソクラテスが盛んに議論を吹きかけたのも、崩れそうな共同体を国家の法で維持するためであり、だから、裁判で有罪とされると、甘んじて死を受け入れた。

西洋近代の幸福論は絶対神の支配から離脱することで始まり、その系譜は経験論のベーコンと合理論のデカルトに分かれる。前者は人間の感情を重視し、例えばアダム・スミスは、『道徳感情論』に「国富論」以上の情熱を注いだ。そしてイギリス経験論はベンサムの「最大多数の最大幸福」に到達する。一方、大陸合理論はカントの内なる道徳律に結実する。

現代の幸福論は身近な問題が常識的に語られる。アランの「情念の波立ちを抑え、過剰な観念や感情に引きずられることなく、心身の安定を保って外界と対峙し、他人とかかわること」のように。（中公新書、880円＋税）

都会のオアシス

青龍山医王院南光寺（東京都足立区）

真言宗豊山派の寺院。開山年代は不詳だが、当寺に関する最古の文献である過去帳に弘安3年（1280）に寂したとの記録があるため、それ以前の創建と考えられる。

『新編武蔵風土記稿』には、「本尊は不動を安ず。薬師堂ありたるも荒廃せしを以って像は本堂に移し、堂の再建はいまだならず」と記録されており、薬師如来（医王）を祀る薬師堂があったことが記されているが、永らく再建されずにいた。昭和58年、寺と檀家が再建を志し、般若心経10万巻を10年計画で写経を始め、その目標の半分の5年で完成したものを堂に納めた。その上に祀ったのが薬師如来の像で、現在の薬師堂は平成5年に建立されたものである。

先祖代々継続されている護摩焚きは、正月・5月・9月の不動尊の縁日である各28日に行われ、檀家に限らず町の人々が本堂に集まりにぎやかになる。境内には享保元年（1716）に建立した六地蔵と、先代が檀家と共に四国八十八箇所巡りをし、霊場の砂を集めた「御砂ぶみ場」が作られている。本堂の左手には座敷「お休処」があり、誰でも入って休めるように開放されている。日暮里舎人ライナー舎人駅から徒歩6分。

書・中田蘭石氏
（高野山書道会会長）

靖國神社
宮司 山口建史
東京都千代田区九段北三―一―一
電話 〇三（三二六一）八三一六

北澤八幡神社
宮司 矢島嗣久
〒155―0032 東京都世田谷区代沢三―二五―三
電話 〇三（三四二二）一三七〇
FAX 〇三（三四二二）五七七六

神道国際学会
会長 マイケル・パイ
副会長 奥野卓司
理事長 三宅善信
www.shinto.org

日枝神社
宮司 宮西修治
〒100―0014 東京都千代田区永田町二―一〇―五

円応教（えんのうきょう）
教主 深田充啓
理事長 赤銅重夫
兵庫県丹波市山南町村森一―一
電話 〇七九五（七七）〇四三〇（代表）

有限会社 リズビトレーディング
中古車買取・カーワールド事業部・レンタカー
代表取締役社長 リズビ カマル
carworld.jp 東京店、埼玉店
イスラムの正しい知識を得る

ユー・アイ光明会
宗務部長 南 曙美

鶴岡八幡宮
宮司 吉田茂穂
権宮司 國生護衛
〒248―8588 鎌倉市雪ノ下二―一―三一
電話 〇四六七（二二）〇三一五

武相総鎮護 座間神社
宮司 山本俊昭
神奈川県座間市座間一―三四三七
電話 〇四六（二五一）〇二四五

曹洞宗帝釈寺東堂
美原道輝

8月3日 聖徳太子富士登山法要
浄土真宗本願寺派如来寺
住職 渡辺英道
〒403―0031 山梨県富士吉田市浅間一―五―六
電話 〇五五五（二二）一八二三

㈱メモリアル聖苑
葬儀相談窓口
フリーダイヤル〇一二〇（九四一）九二二

在日に和合を 祖国に統一を 世界に平和を
平和統一聯合
真の愛による自由、平和、統一、幸福の世界を成し遂げよう

UPF日本
会長 梶栗正義

㈱ユニバーサル企画